

平成28年度

事業報告書

社会福祉法人 三恵会

事業報告目次

三恵会本部	1 ~ 5
特別養護老人ホーム きぼうの苑	6 ~ 8
障害者支援施設 あゆみ苑	9 ~ 11
ケアハウス 夢テラス	12 ~ 13
障害者支援施設 三恵ホーム	14 ~ 19
デイサービスセンター えぐも	20 ~ 21
児童福祉施設 十全保育園	22 ~ 24
特別養護老人ホーム ハートランド三恵	25 ~ 27
老人保健施設 リハビリステーション三恵荘	28 ~ 29
老人保健施設 希望の館	30 ~ 31
通所介護事業所 おいでんや	32 ~ 33
多機能型事業所 わくわくクラブ	34 ~ 35
放課後児童クラブ ともだちパーク	36 ~ 37
地域子育て支援事業（ひろば型） にこちゃんパーク	38 ~ 39
地域密着型特別養護老人ホーム うみかぜ	40 ~ 42
グループホーム かがやき	43 ~ 45
児童福祉施設 中萩保育園	46 ~ 49
養護老人ホーム 慈光園	50 ~ 52

三 惠 会 本 部

平成28年度事業報告

平成28年度は、社会福祉法人にとって、大きな変革の年となりました。社会福祉法が改正され、「経営組織のガバナンスの強化」、「法人運営の透明性の向上」、「財務規律の強化」などが求められるようなり、平成29年4月の施行に向けて準備を行ってまいりました。

まず、「経営組織のガバナンスの強化」では、法人運営の基本的な規則である定款変更の認可申請を行いました。新定款の規定に基づき、評議員選任・解任委員会の設置及び委員の選任を行い、新評議員を選任いたしました。また、「法人運営の透明性の向上」、「財務規律の強化」では、会計監査人の導入に向けた候補者の選定及び予備調査の実施を行いました。

平成29年度には改正法に即して、法人の職務執行に携わる役員の選任や、役員等の報酬の支給基準の制定、内部規約の改正などもございますので、引き続き対応していきます。

今回の大きな改正点は、これまで諮問機関であった評議員会が議決機関となり、法人運営の基本的なルールや体制を決めることとなり、執行機関である理事、監事の選任や解任等の法人運営を監督する役割を担うようになり、法人の意思決定にいたる法令遵守など今まで以上にガバナンスの強化が求められる点でございます。

これらの社会福祉法人改革を、社会福祉法人として地域に信頼され、ご利用していただけるか、また、安心して福祉事業を託せる法人かどうかの見極めであると受け止め、法人組織の土台を安定させることに注力して参ります。

重点課題と具体的な取り組み

(1) 社会福法人制度改革への移行準備

- ①定款変更
- ②評議員選任・解任委員会の設置及び委員の選任
- ③評議員選任・解任委員会にて新評議員の選任
- ④新理事の選任
- ⑤会計監査人候補者の選任及び予備調査の実施

(2) サービスの改革

- ①平成27年度に完成した「食事」、「入浴」、「排泄」の業務マニュアルを活用し、新人教育の標準化を図るため、新人職員の指導係を対象に勉強会を実施した。また、このマニュアルを試用期間中の評価基準にも活用するため検討を行った。

(3) 組織・職員の改革

- ①研修計画に基づき、若年層・リーダークラス等の階層別研修、各団体が実施する法人外の研修に参加した。(研修計画を参照)
- ②職員の確保のため、学生の就職活動ツールに登録し、三恵会の認知度を高め、新居浜市、東温市で企業説明会の実施をした。また、各就職面接会、学校主催の面談会にも積極的に参加するなど活動範囲を広げた。その結果17名の新人を確保できた。

(4) 財務・コストの改革

- ①予算編成システムの構築について、本部、施設、理事長との予算ヒアリングを実施した。また、法人単位の運営に向けた資金管理の一元化の為、本部の運営資金を施設会計から支出する方法を確立した。
- ②適正な給与システムの構築に向け、プロジェクトにて現状の給与システム、給与水準、人件費率等について全国的な水準と比較しながら課題の抽出を行った。

(5) メンタルヘルス対策の推進による働きやすい職場環境の整備

- ①セルフケア推進のため職員へのストレスチェックを実施した。

3. 研修計画

(1) 法人内研修

①新任職員研修

4月1日～4月2日実施 参加職員19名（中途採用含む）

②階層別研修

○若年層向け研修 組織人としての考え方～基本行動の基礎～

第1回 平成28年 6月22日 参加者23名

第2回 平成28年 7月28日 参加者22名

第3回 平成28年 8月24日 参加者23名

○リーダークラス リーダーシップ研修

第1回 平成28年 6月23日 参加者26名

第2回 平成28年 7月27日 参加者26名

第3回 平成28年 8月25日 参加者26名

○リーダークラス ステップアップ研修

(平成27年度リーダーシップ研修受講者)

第1回 平成28年 9月21日 参加者26名

- 第2回 平成28年10月19日 参加者26名
第3回 平成28年11月16日 参加者26名
○若年層 フォローアップ研修
(平成27年度受講者の振り返り研修)
第1回 平成28年11月17日 参加者29名

(2) 法人外研修

- 愛媛県社会福祉法人経営者協議会主催
・社会福祉法人制度改革対応セミナー
　　6月28日 2名参加
・中国・四国地区社会福祉法人経営者セミナー
　　中国・四国ブロック社会福祉法人経営青年会セミナー
　　7月21日～7月22日 2名参加
・新任施設長等研修会
　　12月14日 1名参加
・社会福祉施設監事監査研修会
　　2月14日 2名参加
- 愛媛県社会福祉法人経営青年会
・経営青年会
　　5月30日 2名参加
　　2月 3日 2名参加
- 新居浜市社会福祉協議会主催
・地域における公益的な取組
　　8月 4日 1名参加
　　9月16日 1名参加
　　11月29日 1名参加
- 愛媛県主催
・社会福祉法人制度改革の施行に向けた説明会
　　8月10日 2名参加
　　12月 5日 1名参加
・社会福祉法人の財務諸表等電子開示システムに係る試行運用前説明会
　　12月 5日 1名参加

○東予地区老人福祉施設協議会主催

- ・事務職員等研修会

8月30日 2名参加

○新居浜年金事務所主催

- ・年金委員・健康保険委員研修会

9月16日 1名参加

○中・四国身体障害者施設協議会主催

- ・中・四国身体障害者施設職員研修大会

10月13日 1名参加

○三井住友海上火災保険株式会社主催

- ・地域包括ケアと介護保険改正&介護経営のポイント

9月14日 1名参加

- ・社会福祉法人経営者セミナー

12月 8日 2名参加

○独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構主催

- ・障害者職業生活相談員資格認定講習

12月14日～12月15日 1名参加

○愛媛労働局主催

- ・改正男女雇用機会均等法及び育児・介護休業法説明会

10月24日 1名参加

○愛媛県法人会連合会主催

- ・女性活躍勉強会、情報交換会

11月 9日、11月18日 1名参加

○日本年金機構、全国健康保険協会愛媛支部主催

- ・愛媛県年金委員等研修会

11月15日 1名参加

- 全国社会福祉法人経営者協議会主催
 - ・初級リスクマネジャー養成講座
1月14日～15日、2月9日～10日 1名参加
- 全国老人保健施設協議会主催
 - ・介護老人保健施設リスクマネジャー養成講座
1月16日～18日、2月15日～17日 1名参加
- 新居浜市障がい者自立支援協議会主催
 - ・障がい者雇用促進セミナー
1月21日 1名参加
- 愛媛県社会福祉協議会主催
 - ・退職共済実務研修会及び福利厚生センター担当者研修会
2月7日 1名参加

特別養護老人ホーム
きぼうの苑

平成28年度 事業報告

1. 経営方針

平成28年度は、職員間の連携強化と職員一人一人の資質の向上を図ることを最優先の目標とし、介護事故や苦情を減らし、ご利用者が安全・安心で満足して楽しく生活していただけるよう努めた。ご利用者の情報を共有し、説明力アップに努めると共にご利用者、ご家族からの要望や苦情等については真摯に対応し説明を行うよう努めた。

高齢化の進展による要介護度の進行や認知症等による転倒などの事故発生件数は前年と比べて横ばいの結果であった。今後も事故防止に最大限の取り組みを行い、入所者の安全で安らかな生活をサポートできるよう努力していく所存である。

また、前年に引き続き各部署が具体的な目標数値を設定し、達成に向けて努力をしたが、黒字の収支達成にはやや届かない結果であった。引き続き健全な施設運営のため稼働率等の数値目標達成に向けて職員一丸となって取り組んでいきたい。

地域での在宅支援においては、他の施設や包括支援センター、訪問介護事業所等他のサービス事業者や地元自治会との情報交換や緊密な連携が不可欠である。ご利用者の在宅での健康な生活を維持、支援するための介護計画の立案、担当者会、地域の公民館におけるP P K体操指導などを積極的に行なった。

また、愛媛県福祉サービス第三者評価を受審した。その中で改善を求められた項目については、職員間で協議を重ねて、見直しを図りたい。

感染症については、ご利用者・職員ともにインフルエンザの感染者が十数名出たが、職員一丸となって対応した。来年度以降も油断することなく感染症対策を徹底したい。

2. 重点課題と具体的な取り組み実績

(1) 「誠実な福祉」の実践

- ①職員勉強会、職員研修を実施し、職員の資質の向上に努めた
- ②苦情、要望等への速やかな対応と対策に努めた
- ③災害（地震・火災・自然等）に備えた取り組みと災害毎の訓練を実施した
- ④誠実・真摯な業務への取り組みと利用者、家族との信頼関係の構築に努めた

(2) 「確実な知識と技術」の修得

- ①介護研修を継続的に実施し介護職の技術力の向上に努めた
- ②介護事故の検証と事故防止対策の徹底を図った
- ③研修による認知症の理解と介護対応の統一化を図った
- ④介護福祉士の資格取得のための実務者研修受講の支援を行った

(3) 「堅実な経営」への取組み

- ①ストレスチェックを実施し、職員へのメンタルヘルスケアを行った
- ②部署ごとの稼働率・利用者数等の数値目標への取り組みや経費の節約に努めた
- ③入所待機者の効率的な入所と入院による空室期間の短縮への取り組みを行った
- ④愛媛県福祉サービス第三者評価を受審した
- ⑤浴槽のろ過装置等の変更工事を実施した

3. 研修計画

(1) 施設内

①三恵会本部主催

新人研修 研究発表研修 他

②自主研修

4月	リスクマネジメントについて	10月	身体拘束廃止について
5月	ストレスチェックについて	11月	虐待防止について
6月	褥瘡防止について	12月	食中毒予防について
7月	認知症ケアについて	1月	ターミナルケアについて
8月	個人情報・プライバシー保護について	2月	接遇について
9月	感染症予防について	3月	リスクマネジメントについて

(2) 施設外

①老人福祉施設協議会関係

全国 四国 愛媛県 東予地区 新居浜市各協議会

②栄養士関係 愛媛県 東予地区 新居浜市 各栄養士研修 特定給食施設研修 新居浜市病院栄養士 栄養指導者研修 栄養ケアマネジメント研修

③介護職員関係 認知症 指導者養成研修 介護技術向上研修

④介護支援専門員 愛媛県 新居浜市 県社協主催研修

⑤介護職キャリア段位制度のアセッサ研修

4. 行事計画(年間)

4月	合同花見 家族会総会	10月	太鼓祭り 社会見学 防火訓練
5月	新緑ドライブ 機関誌発行	11月	文化祭 紅葉見物 焼き芋
6月	運動会 神事 菖蒲見学	12月	忘年会 お餅つき クリスマス 大掃除
7月	そうめん流し ワークキャンプ	1月	お正月 初詣 新年会 機関誌発行
8月	慰霊祭 盆踊り ビアガーデン	2月	節分 バレンタイン
9月	敬老会 観月会 機関誌発行	3月	ひな祭り ホワイトデー 防火訓練
※ 毎月第4金曜日 居酒屋		※各クラブ活動 定期的に実施	

5. 地域交流、ボランティア、実習生

(1) 地域交流

交流事業 やすらぎの郷文化祭 西の土居花見 各自治会活動・公民館活動
校区運動会・文化祭への参加と協力(久保田・滝宮・金栄・西の土居)
施設見学の受入れ、ふれあいサロンの実施(金栄、西の土居、政枝、
久保田、若水) 校区ソフトボール大会

(2) ボランティア活動

①職員ボランティア活動

地域清掃 生き生きフェスティバル 地元自治会活動への協力

②ボランティアの受入

新居浜工業高等学校 新居浜商業高等学校 新居浜南高等学校 天理教
金栄福祉ボランティア団体 金栄婦人会 若く明るく歌を歌う会
語り部演奏 琴演奏 ハープ演奏 少林寺拳法 マンドリン演奏 大正琴演奏
絵手紙教室 習字 フラダンス クラシック演奏 昔話披露 三味線演奏
フォークダンス 口腔ケア衛生管理

(3) 実習生の受入

①学校等

十全看護専門学校 松山東雲短期大学 河原医療福祉専門学校
 新居浜南高等学校 四国中央医療福祉総合学院 今治明徳短期大学
 愛媛十全医療学院

②体験学習 新居浜市役所 教員免許特例法による介護体験
 中高生ワークキャンプ 松山大学

③養成機関 (ヘルパー) シルバー人材センター ビーイング

6. 入所利用者状況 (平成29年3月31日現在)

(1) 年齢

	59以下	60~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	95~99	100以上	合計	平均
男	0	1	0	3	1	10	4	3	1	0	23	82.5
女	0	0	2	5	4	16	32	20	12	2	93	87.3
合計	0	1	2	8	5	26	36	23	13	2	116	86.3

(2) 要介護度

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	要介護度平均
男	0	1	6	7	9	4.04
女	4	4	16	29	40	4.04
合計	4	5	22	36	49	4.04

障害者支援施設
あゆみ苑

平成28年度 事業報告

1. 経営方針

平成28年度は職員間の連携を強化し、職員一人一人の資質の向上に努めるとともに、接遇マナーの改善のため、職員が毎朝「朝の挨拶運動」に取り組み、正しい言葉遣いと身だしなみ、挨拶の励行に取り組んだ。

また、介護事故の防止に努めるとともにご利用者、ご家族に対する笑顔での接遇応対とコミュニケーションに努め、ご利用者の情報を共有し、ご家族からの要望や苦情等について真摯な対応と説明を行った。

ご利用者の高齢化による入院や介護保険への移行に備え、新規利用者の獲得のため相談支援事業所や各サービス事業所と情報交換を行い、連携を強化するなどの様々な取り組みを行った。また、特別支援学校との関係強化をはかり積極的な受入を行った。

感染症対策では、一部職員にインフルエンザの感染者が出たものの、ご利用者の感染者は出なかった。来年度以降も油断することなく感染症対策に努めたい。

その他、地域との連携による防災対策、職員の心の健康と安全を守るためのメンタルヘルスケアなどの取り組みを行った。

2. 重点課題と具体的な取り組み実績

(1) 「誠実な福祉」の実践

- ① 職員勉強会、職員研修を実施し、職員の資質の向上に努めた
- ② 接遇マナーの改善に取り組んだ
- ③ 職員と利用者、家族との信頼関係の構築に努めた
- ④ 災害（地震・火災・自然等）に備えた取り組みと災害毎の訓練を実施した

(2) 「確実な知識と技術」の修得

- ① 危機管理のための継続的な勉強会の実施
- ② 高齢化が進むご利用者の情報共有に努め事故防止対策を行った
- ③ 職員間の連携と情報共有の徹底を図った
- ④ 研修により障害特性の把握や理解をより深め、統一した支援体制の徹底を図った

(3) 「堅実な経営」への取り組み

- ① 部署ごとの稼働率・利用人数等の数値目標への取り組みや経費節約に努めた
- ② 欠員が出た場合の入所待機者の効率的入所と入院による空室短縮の取り組みを行った
- ③ ストレスチェックを実施し、職員へのメンタルヘルスケアを行った
- ④ 浴槽のろ過装置等の変更工事を実施した

3. 研修計画

(1) 施設内（きぼうの苑と合同）

①三恵会本部主催

新人研修 研究発表研修 他

②自主研修

4月	リスクマネジメントについて	10月	身体拘束廃止について
5月	ストレスチェックについて	11月	虐待防止について
6月	褥瘡防止について	12月	食中毒予防について
7月	認知症ケアについて	1月	ターミナルケアについて
8月	個人情報・プライバシー保護について	2月	接遇について
9月	感染症予防について	3月	リスクマネジメントについて

(2) 施設外

全国身体障害者施設協議会 経営セミナー

中・四国身体障害者施設協議会 施設長会（研修会）・施設職員研修大会

愛媛県身体障害者施設協議会 施設長会・施設職員研修会

愛媛県障害者相談支援従事者研修

愛媛県障害程度区分認定調査員研修

通所施設直接処遇職員研修会、サービス管理責任者研修

4. 行事計画（年間）

4月 花見

5月 日帰り旅行 街中ツア－ 愛媛県障害者スポーツ大会

6月 紫陽花見学 合同運動会

7月 七夕 花火 ビアガーデン（施設内外） 素麺流し 映画

8月 慰霊祭 盆踊り カラオケ大会 映画

9月 日帰り旅行 観月会

10月 地方祭 防火訓練

11月 文化祭 紅葉狩り 街中ツア－ 焼き芋

12月 クリスマス会 忘年会 餅つき 大掃除

1月 初詣 書初め 新年会 料理

2月 節分 バレンタイン

3月 ひな祭り 運動会 防火訓練

*定期行事：買い物、外出、買い物訓練、誕生者外食、居酒屋（第4金曜）、陶芸、お茶会

介護教室、フラワーアレンジメント、料理教室

*クラブ活動：習字クラブ（第2・4火曜）、生花クラブ（第3木曜）

5. 地域交流、ボランティア、実習生

(1) 地域交流

やすらぎの郷文化祭、施設見学の受け入れ、他施設行事への参加、外出行事による社会参加、来苑ボランティアとの交流、校区芸能発表会、校区運動会、校区文

化祭、校区ソフトボール大会、校区ケアネットワーク

(2) ボランティア活動

①職員ボランティア活動

地域清掃、地元自治会活動への協力、生き生きフェスティバル

②ボランティアの受け入れ状況

愛媛県立新居浜工業高校、愛媛県立新居浜商業高校、愛媛県立新居浜南高校、天理教、金栄福祉ボランティア団体、金栄婦人会、語り部演奏、琴演奏、ハープ演奏、若く明るく歌を歌う会、少林寺拳法、マンドリン演奏、大正琴演奏、絵手紙教室、習字、フラダンス、クラシック音楽演奏、口腔ケア衛生管理、昔話披露、三味線演奏、フォークダンス披露

(3) 実習生の受け入れ

<学校関係>

今治明徳短期大学、松山東雲短期大学、河原医療福祉専門学校、四国中央医療福祉学院、愛媛十全医療学院

6. 利用者状況 (平成29年3月31日現在)

(1) 年齢 ()…入所支援

	19以下	20~29	30~39	40~49	50~59	60~65	66以上	合計	平均
男	0 (0)	4 (0)	2 (0)	5 (3)	4 (1)	13 (2)	4 (4)	32 (10)	54.6 (59.3)
女	0 (0)	5 (0)	1 (1)	6 (3)	7 (2)	7 (2)	2 (2)	28 (10)	50.1 (54.8)
合計	0	9	3	11	11	20	6	60	52.3

(2) 障害者程度区分 ()…入所支援

	1	2	3	4	5	6	合計	平均
男	0 (0)	0 (0)	8 (0)	6 (0)	4 (3)	14 (7)	32 (10)	4.8 (5.7)
女	0 (0)	1 (0)	4 (0)	5 (0)	7 (5)	11 (6)	28 (10)	4.8 (5.6)
合計	0	1	12	11	11	25	60	4.8

ケアハウス
夢テラス

平成28年度 事業報告

1. 経営方針

平成28年度は「安心安全で魅力ある施設づくりを行い、ご利用者の満足度を向上させ、長期間利用していただく」ことを目標に掲げたが、入居者の方々の高齢化により、身体面、精神面の状態低下による突然の思わぬ病気の発現やADLの低下等が見受けられて、退居するご利用者が増加し、稼働率が大きく低下する月が見られた。

個々の状態に合わせた生活の継続ができるよう支援に努め、必要に応じてご家族や関係事業所との連携を図りながら、在宅サービス利用の援助等を行い、長期利用に繋がるよう努力した。

また、新規に入居を希望する人も住居や生活面、健康面などに不安や問題を抱えているケースが多くなってきてている。

ご利用者が高齢化、虚弱化しても、少しでも長期の生活(利用)ができるよう、施設の環境整備と、職員の知識や技術の向上に努めているところであり、今後も、施設の特徴をつくり、幅広く入居希望者を確保するとともに、入居者の皆様が日々安心して楽しく生活できるよう支援し、安定した施設運営を目指したい。

2. 重点課題と具体的な取り組み実績

(1) ご利用者の高齢化・多様化に合わせた支援の充実

- ① ご利用者個々の心身の状態を把握し、体力低下の予防と健康の維持・増進に努めた。
- ② 関係機関・職種と情報共有に努め、在宅サービスの利用などの調整・援助を行った。
- ③ 緊急時も早期の対応を行い、入居者の心身の安全・安心に努めた。

(2) 利用者が安心安全で快適に過ごせる生活環境の整備と施設づくり

- ① 入居者との関わりや茶話会等を通じて、ご利用者の意見や希望を収集し、外出行事や施設内行事を魅力あるものにして、楽しい生活となるよう努めた。
- ② 利用者が円満な人間関係を構築できるよう、支援に努めた。
- ③ 既存設備の点検や修繕を隨時実施し、入居者がより安心、安全に生活できるよう生活環境の改善等を行った。また、浴槽のろ過装置等の変更工事を実施した。

(3) 入居者の確保

- ① ご利用者個々の状態に合わせた支援を行い、長期利用に繋がるよう努めた。
- ② 施設見学者、実習生、ボランティア等に対し施設の概要をわかりやすく説明・PRし、入居者確保に繋がるよう努めた。
- ③ 他事業所のケアマネ等との情報交換を通じて、入所希望者の募集・確保に努めた。

3. 研修計画

- (1) 施設内…三恵会教育部門研修、職員勉強会(毎月)の実施、接遇研修、職員全体会、合同主任会の実施、リスクマネジメント、認知症ケア、メンタルヘルスケア他

- (2) 施設外…全軽協四国ブロック研修会他への参加

4. 行事(年間)

① ケアハウス行事

茶話会 誕生会 買物クラブ シャクヤク見物 そうめん流し 花火 敬老会
上部乳児保育園交流会 忘年クリスマス会 新年会 節分・豆まき イチゴ狩り

② やすらぎの郷行事参加

なかよしクラブ 花見 太鼓台見物 運動会 神事 ビアガーデン 慰靈祭・盆踊

り 観月会 防災・防火訓練 文化祭

5. 地域交流、ボランティア、実習生

(1) 地域交流

・地域公民館行事、上部乳児保育園 各種ボランティア団体交流 地域太鼓台

(2) ボランティア、実習生

・実習生へのケアハウスの事業、業務の説明、施設見学等、各種ボランティア団体との交流

6. 入所利用者状況 (平成 29 年 3 月 31 日現在)

(1) 月別利用者数 (各月 1 日現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男	9	8	7	6	6	6	6	5	5	6	7	7	78
女	19	20	20	20	21	20	18	17	18	18	17	18	226
合計	28	28	27	26	27	26	24	22	23	24	24	25	304

(2) 月別居室稼働率 (各月 1 日現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2F(室)	13	13	12	11	12	11	10	9	10	10	10	11	132
3F(室)	12	13	13	13	13	13	12	11	11	12	12	12	147
合計	25	26	25	24	25	24	22	20	21	22	22	23	279
稼働率 (%)	96.2	100	96.2	92.3	96.2	92.3	84.6	76.9	80.8	84.6	84.6	88.5	平均 89.4

(3) 入居者年齢

	69歳以下	70~74歳	75~79歳	80~84歳	85~89歳	90歳以上	合計	平均
男	0	0	1	0	4	3	8	87.3
女	0	0	1	10	4	4	19	85.6
合計	0	0	2	10	8	7	27	86.1

(4) 要介護認定状況

	非該当	要支援Ⅰ	要支援Ⅱ	要介護1	要介護2	要介護3~5	合計
男	2	3	0	1	2	0	8
女	1	5	3	6	3	1	19
合計	3	8	3	7	5	1	27

障害者支援施設
三 恵 亦 一 ム

平成28年度 事業報告

障害者支援施設三恵ホーム

1 経営方針に関すること

(1) 経営の現況について

当施設は、身体障害者を対象とした福祉サービス事業を実施してきており、昨年度は、昭和55年の開設以来36年目であった。

定員は、「生活介護」及び「施設入所支援」が合計70人、「短期入所」及び「地域生活支援（日中一時支援）」が合わせて4名である。

(2) 稼働率について

稼働率は、「生活介護」及び「施設入所支援」については、100パーセントに近い数値で推移しており、入所待機者が約60人登録されている。しかし、近時は、順番が来ても入所に至らず、補充入所までに多くの空白日数を生じる事例が多くなり、事業活動収入のマイナス要因となっている。

一方、「短期入所」及び「地域生活支援」の稼働率は、25年度42.3%、26年度44.3%、27年度53.8%であったのに対し、28年度は63%と着実に向上している。

また、平成26年10月に開設した「指定特定相談支援事業所」についても利用契約数が160件を超え、当初の目標値を大きく上回る実績を上げている。

(3) 職員の確保について

職員の確保は、依然として生活支援員を中心に極めて厳しい状況が続いている。新規卒業者だけでなく、中途採用者についてもハローワークや職員の知人など様々なルートを通じて確保に努めているところである。障害福祉の現場の特殊性等の理由から、折角採用しても定着できない事例もあり、定着のためのきめ細かいサポート、計画的な育成・指導に努めている。現状では、サービスの維持に必要な最低限の人員が確保されている状況にある。

(4) サービスの適正化について、

前年度、前々年度と苦情の申し立て事件はなかったが、28年度は1件の申し立てがあった。内容は、トイレから職員に通話ができる設備を整えて欲しいというもので、予算措置を講じて整備を終えた。虐待は発生していないが、心理的虐待を中心にいつ発生してもおかしくないという意識で、施設内研修を実施するなどして意識の更なる啓発に努めている。28年度は、「感情労働」について学び、また「アンガーマネジメント」について、ストレスやイライラを背景に生じる怒りが虐待に結びつくことが無いよう対処する方法を学んだ。

(5) 収支について

補充入所に係る空白日数の増加が収入低減の要因となった一方、短期入所の稼働率の向

上、指定特定相談支援の実績の向上等が収入増加の要因になった。管理費の節約にも努めた結果、施設全体として、前年度に引き続き、収支の均衡を維持し、概ね健全な経営を維持することができた。

2 重点課題と具体的な取組み

(1) 利用者の思いを尊重した支援

利用者と関わる時間を持ち、利用者個々の考え方や思いに耳を傾けるよう努めた。利用者の希望や願いを個別支援計画に反映し、利用者が自分らしく過ごすことができるよう支援に努めた。

① 利用者、一人ひとりの生活スタイルを尊重した個別ケアの実現

- ・利用者様一人一人に主眼を置き、個々の生活スタイルに合わせた日常的な支援が行えるよう、職員が密な関係を保ち、ご本人の意向を大切にした支援に努めた。

② 利用者の希望や願いを実現するための個別支援計画の作成・実施

- ・ユニット職員によるアセスメントと日頃の関わりの中から、利用者の希望・願いをよりきめ細かく引き出せるようにし、それを個別支援計画に反映させた。個別支援計画は、毎月評価を実施して、サービスの向上に努めた。

③ 利用者がより楽しく、充実した生活を送るための日中活動への積極的支援

- ・利用者に合わせて様々な活動の場を提供し、より楽しくより充実した生活が送れるよう有意義な日中活動を目指した。外部ボランティアの慰問や利用者様のご家族による活動、好評を得ているカラオケや憩い喫茶等、利用者ご自身が参加を選び、楽しんでいただいた。

- ・個別外出では年3回、利用者様お一人おひとりのご希望に応じた情報提供を行い、自由に楽しみ、満足していただけるよう個別支援に努めた。

(2) 利用者が安心して過ごすことのできる施設づくり

正しい知識と技術を学び、利用者に安全で安心かつ、心豊かな生活を過ごしていただけるよう、上質なサービスの提供に努めた。また、常に危機意識を持ち、高齢化に伴う認知症や重病化を考慮し、細やかな目配り、気配りに心掛けた。

① 利用者の個々のニーズの実現を目指した個別ケアの充実

- ・個別支援計画について、毎月評価を実施して、サービスの向上に努めた。
- ・制度の内容や変更、施設での対応方法、書類の変更箇所等、利用者とご家族へその都度、文書や掲示、電話、口頭、ご家族面会時、各会等で説明を行い情報の提供を行った。

② 利用者とご家族との良好な関係を築けるよう、接遇マナーの更なる強化

- ・接遇研修で学んだことを継承し、日々の業務の中、意識を高めながらイメージアップに努めた。

- ③ 利用者の口腔衛生を目的とした歯科・口腔健康検診の実施
 - ・利用者の口腔衛生を目的とした愛媛歯科口腔保険センターの歯科医師による歯科検診を実施した。また、口腔ケアや歯の治療の必要な方には、2次検診を実施した。
- ④ 感染症予防対策の強化
 - ・感染予防の為、インフルエンザワクチン接種を11月に実施した。
 - ・施設内感染情報は、レポートに取りまとめ施設内に周知するとともに、委員会で効果的な予防が行われるよう、常に状況分析を行い、対策を立てるよう努めた。
- ⑤ 危機管理意識、リスクマネジメントの徹底、再発防止の取組みの強化
 - ・常に危機意識を持ち、予測される事故を未然に防ぐ為のリスクマネジメントに努めた。
 - ・事故やヒヤリハットは、直ちにご家族へ報告し、対策もご報告して、事故の再発防止に努めた。また、面会時には、利用者の近況をお伝えし、ご家族との信頼関係の構築に努めた。
- ⑥ 利用者のリハビリテーション実施計画書の定期的な見直し
 - ・3ヶ月毎に、ケースによっては随時見直しができた。
- ⑦ 個別リハビリへの声掛け、誘導の支援
 - ・特に午後に、声かけと誘導に力を入れた。
- ⑧ 車椅子・装具・自助具の点検と適切な修理
 - ・利用者やご家族の希望に沿って、車椅子の点検と修理の対応を実施した。
- ⑨ パソコンの利用環境の整備(訓練室と利用者様の居室)
 - ・訓練室用パソコンや利用者パソコンの整備を随時行った。
- ⑩ 栄養マネジメントを活かし、安全で美味しく、楽しく、安心な食事の提供
 - ・嗜好調査の結果や給食委員会での利用者の意見を取り入れ、栄養マネジメントを活かした食事を提供した。
- ⑪ 利用者一人ひとりに目を向け、栄養ケア・健康管理の充実
 - ・利用者個々の栄養摂取量や食形態に合わせた食事を提供し、栄養状態の悪化や疾病の重症化の防止、健康の維持に努めた。
- ⑫ 利用者、職員へ季節ごとの衛生管理の情報提供と意識付けの強化
 - ・労働安全衛生法の規定に基づき、職員の健康管理を行い、また衛生的な業務環境にするため、衛生管理委員会から情報発信を行った。

(3) 介護サービスの質の向上

職員研修や施設内外の各種研修へ積極的に参加し資質の向上を図り、人材育成に努めた。また、様々な資格取得にも挑戦し、日々の支援に生かした。

- ① 各種研修会への積極的参加、専門的な知識と技術の向上と共有
 - ・施設内研修では、人材育成委員会による毎月の研修で、主にグループワークを取り

入れ、積極的な意見を出し合い、職員一人ひとりのスキルアップを図った。また、外部研修に参加することで他施設との情報交換を行い、上質なサービスの提供に繋げる努力をした。

- ・介護技術の実技研修を新人職員に行い、介護技術の向上に努めた。
- ② 定期的なリーダー会、ユニット会議の開催
 - ・定期的にリーダー会、ユニット会議を開き、早期の問題解決に努めた。
- ③ リモコンやナースコール等を利用可能にする改造援助
 - ・利用者の身体状態を出来る限り観察し、リモコンやナースコール等を利用可能にする改造援助を行った。
- ④ 各班間の連携の強化
 - ・各種会議や申送りにて情報交換や情報の共有を図り、各部署間の連携を密にした。
- ⑤ 関係機関・各種団体・施設間とのネットワークの充実
 - ・各行事の実施にあたり、ボランティアの依頼や関係団体等と連携を密にして、円滑に行事を実施するよう努めた。
 - ・利用者の入退所や新規の利用希望について関係機関と連絡をとり、適切な対処方法についての協議、受入の日程調整等を行った。

(4) 地域に愛され、信頼される開かれた施設

- ① 短期入所及び日中一時支援事業の積極的な受入れ
 - ・短期入所利用実績 189件 750日間の受入れ
 - ・日中一時支援利用実績 170日間の受入れ
 - ・短期入所・日中一時支援の稼働率の向上
63.0% (27年度 53.8%)
- ② 地域の方との良好な関係を築けるよう、接遇マナーの更なる強化
 - ・地域交流行事（ふじ祭り、盆踊り）や、ボランティア等、来所の際には接遇マナーに配慮し、地域の方との良好な関係作りに努めた。
- ③ 利用者のご家族や地域の方々への日中活動の協力の呼びかけ
 - ・施設内外で地域の皆様と交流ができるよう、地域交流委員を中心に地域交流行事（ふじ祭り、盆踊り）の企画を行い、地域との繋がりの強化に取り組んだ。
- ④ 地域行事へ積極的な参加
 - ・社会福祉協議会等が実施する地域行事へも積極的に参加し、地域の方との交流を積極的に行行った。
 - ・地区の春の井出清掃と秋の道づくりに参加をした。
- ⑤ ボランティアの積極的受入れ
 - ・ふじ祭りや盆踊りの時には、実習受入校や各種団体にボランティアの依頼を行い、協力をしていただいた。

- ・ボランティアの団体や個人の増加と活動の継続を目指して、ポスターを作成し、地域の方への呼びかけを行った。

3 研修

(1) 施設内

- ① 年間研修計画に基づき実施
 - ・年間計画に基づき、9回実施した。延べ259人が参加した。
- ② 施設内研究の充実と施設内発表会の開催
 - ・三恵会本部主催のリーダークラス、若年層に分かれての職員研修では、スキルアップに努めた。施設内研修でも、人材育成委員会による毎月の研修を実施。また外部研修に参加することで他施設との情報交換を行い、上質なサービスの提供に繋げる努力をした。
 - ・介護技術の実技研修を新人職員に行い、介護技術の向上に努めた。
 - ・今年度も、緊急を要する医療行為（たんの吸引等の行為）の養成研修に生活支援員1名受講し、資格を取得することができた。

(2) 施設外

- ① 全国身障協職員研究大会
- ② 中四国身障協施設長研修会、事務管理研修会、支援職員研修大会、職員研修大会
 - 事務管理研修会は、三恵ホームが担当施設として、企画・運営した。
- <講演①>
 - 講師 サクセスブレーンズ（株） 代表 廣瀬一郎
 - 表題 「アンガーマネジメントと感情労働」ストレスや怒りにどう向き合うか
- <講演②>
 - 講師 松山市立子規記念博物館 館長 竹田美喜
 - 表題 「子規に学ぶ改革の精神—子規病床で闘う—」
- <全体討議>
 - 参加者 47施設から76人
 - 議題 26施設から80件
- ③ 県内身障協職員研修会、サービス管理責任者研修会、職員研修大会
- ④ 職種別専門研修会
- ⑤ 三恵会本部主催の職員研修

4 行事

- ① 4月 お花見、地域交流三恵ふじ祭り
- ② 5月 愛媛県障害者スポーツ大会

- | | | |
|---|--------|-------------------------|
| ③ | 6月 | ナイスハート・ふれあいのスポーツ広場 |
| ④ | 7・11月 | 防災訓練（地震、土砂災害想定、火災夜間想定等） |
| ⑤ | 8月 | 地域交流三恵盆踊り大会 |
| ⑥ | 10月 | 車椅子マラソン |
| ⑦ | 12月 | 餅つき大会、クリスマス会、忘年会 |
| ⑧ | 1月 | 新春ゲーム大会、鏡開き |
| ⑨ | 2月 | 節分豆まき、カラオケ大会 |
| ⑩ | 4月～12月 | 個別外出 |

5 地域交流、ボランティア、実習生

(1) 地域交流

- | | | |
|---|----------------------|------|
| ① | 地域交流ふじ祭り | 400名 |
| ② | 地域交流三恵盆踊り大会(愛媛県との共催) | 550名 |
| ③ | 東温市身障協助会との交流 | 24名 |
| ④ | 川内保育園との交流 | 33名 |

(2) ボランティア活動

- ① 職員ボランティア活動
 - ・地区の春の井出清掃と秋の道づくり
 - ・国道11号歩道の生垣の清掃 隔月1回、年間6回、実施しました。
- ② ボランティアの受入れ
 - ・川内町ともしひ会（40名）・創価ボランティア（61名）
 - ・東温市婦人会（8名）・伊予銀行（10名）・傾聴ボランティア（30名）
 - ・河原医療福祉専門学校（9名）・HATACHIの会（46名）
 - ・松山東雲短期大学（2名）・松山城南高校 福祉科（24名）
 - ・愛媛十全医療学院（15名）・愛媛調理製菓専門学校（12名）
 - ・今治明徳短期大学（2名）・聖カタリナ大学（3名）
 - ・K9 クラブ（9名）・こまちグループ（20名）

(3) 実習生の受入れ

- ・河原医療福祉専門学校・松山城南高校(福祉科)

デイサービスセンター
えぐも

平成28年度事業報告

デイサービスセンターえぐも

1 経営方針に関すること

えぐもは、介護保険法に基づく通所介護及び居宅介護支援に関する事業を実施しており、28年度は平成6年の開設以来22年目であった。

(1) 通所介護事業及び介護予防通所介護事業

東温市内で、競合するデイサービス事業所が、この3年間で新たに5事業所（定員合計100人）開設され、激しい競争となっている。

このため、通所介護事業の利用者は漸減傾向を辿り、過去10年で、年間約8千人から約4千2百人へほぼ半分に減少し、加えて、平成27年度の介護報酬の減額改定により収支は悪化しており、28年度決算では約1千万円規模のマイナスとなる。

平成26年度から「えぐもの将来像検討班」で、また28年度からは「経営会議」を設け、これを母体に経営再建に当たってきた。その検討結果を受け、

- ① 組織面では、改革推進の軸になる男性主任を配置
- ② 生活機能の向上、認知症予防など利用者のニーズにきめ細かく対応したサービスを提供
- ③ 広報媒体（キャッチコピー「心温まる憩の場デイサービスえぐも」）を開発し、これを公用車に貼るなどして、活用・展開し、また広報用チラシを作成して、地域の企業や諸団体を訪問してPR活動を実施
- ④ サービス提供時間を6時間から7時間に延長することで、ご家族のニーズに対応するとともに収入増を図る

などを実施してきた。

これらにより、1日当たりの利用者数19人を目指に回復に努めたが、新規利用者数を死亡や施設入所による契約解除数が上回り、利用者数の回復には至っていない。

(2) 居宅介護支援事業

居宅介護支援事業の収入は、えぐも全体の事業活動収入の10数%程度である。利用者数が伸び悩み、平成27年度に比べて半数程度の35人前後になるとどまった。

2 重点課題と具体的な取組み

(1) サービス内容の見直し

ア サービス提供時間の変更に伴い、送迎ルートを見直し、時間短縮に向けた効率化に取組みを行った。

イ 利用者の機能維持に向けて、口腔体操や歩行器を使った歩行訓練等を実施した。また、認知症予防を目的に、新たに音楽療法や俳句、茶道の時間を導入し、実施した。

音楽療法（毎月1回実施）では、キーボードの生演奏に合わせて、懐か

しい童謡や歌謡曲を合唱する中で、ゆったりと往時を偲び、元気でデイサービスに通うことのできる今を楽しんでいる。

また、俳句（毎月1回実施）では、毎月10人余りの利用者から平均して50から70の句が寄せられた。その一つ一つに、四季折々の風情や長い人生を感慨深く振り返る内容が詠み込まれており、利用者の新しい生きがいづくりになっている。寄せられた句の中から5句程度を、地元の銀行の支店のロビーに掲出させていただいており、このことも利用者の励みになっている。

(2) 情報収集と連携強化

ア 研修会・連絡会等に参加し、情報収集や知識向上に努めた。

イ 関係機関へは積極的に出向き、連携強化や新規利用者情報の紹介に努めた。

(3) 職員の資質の向上

ア 介護保険制度が改正される中、地域密着型通所介護事業や東温市が導入する新しい介護予防・日常生活支援総合事業について、平成29年4月の導入に向けて、その詳細な内容の把握に取り組む勉強会を設け、資質の向上に努めた。

3 研 修

(1) 法人内

ア デイ部門会	1回
イ リーダー研修会	2回
ウ 三恵ホーム職員研修会	7回

(2) 法人外

ア 県老施協研修会	5回
イ 中予老施協研修会	2回
ウ 県老人福祉大会	1回
エ 中四国ブロック研修会	1回
オ 介護支援専門員研修会	3回

4 行 事

ア 社会見学	年間7回
イ 敬老演芸会	1回
ウ クリスマス会	1回
エ 誕生会	12回
オ 防災訓練	2回
カ 地域交流 藤祭り	1回
キ 演芸ボランティア	3回

兒童福祉施設
十全保育園

平成28年度事業報告

1. 経営方針

子ども・子育て支援法が施行されて2年が過ぎましたが、保育内容は今までの保育を継続し、さらに内容を充実させることに力を注いできました。

特に5～6年在籍した障がい児が2名卒園ということで、今までの発達を振り返り、発達支援課や小学校との連携、また発達を的確に捉えてどのように保育を進めていくか、保育の専門性の大切さを感じることが多かったと思います。それは日々の保育にも通じ、保育園にとってもプラスとなりました。

経営の面においては、さまざまな加算、職員の処遇改善等が進められる中、運営の中でそれらの収入をどう処理し支出していくか、新たな問題も山積した年度でもありました。今後も国の情勢を的確に把握し、安定した運営ができるよう方針をしっかりと定め進めていきたいと考えています。

保育士不足と言われ、職務内容も問われる1年ではありましたが、今、在籍している職員を育成し定着していくこと、職員自身が「保育」に対して誇りを持ち、喜びを十分感じられる、また、保育内容も質の高いものを目指すよう、今後も日々力を注いでいきたいと感じています。

2. 重点課題と具体的な取り組み実績

(1) 「誠実な福祉」の実践

① 子どもの健康・安全な生活を保障する。

- ・月1回の職員会で、子どもの状況、けがの報告を話し合い、周知徹底を図りました。大きなかがは、ありませんでしたが、ヒヤリハットの活用を高めていきたいと考えています。

② 子どもの健やかな発達を目指した保育

- ・職員会での討議、発達支援課の巡回相談において、職員全体で検討し、意識を一致させることを大切にしていきました。
- ・運動会、発表会等で職員一人ひとりの保育の工夫が活かされ、子ども達も達成感を得、保護者にも満足して頂ける取り組みができました。

(2) 「確実な知識と技術」の修得

① 職員の資質向上

行事の中で、「できる」「できない」を問うのではなく、発達としてどう捉えるかの協議を大切にしていきました。

② 職員の業務内容について

- ・それぞれの職種において、行事等で責任と当事者意識を重視し、業務を進めていきました。若い職員を巻き込み、楽しい取り組みもできました。

栄養士は、食育活動での保育士と連携が図れ、計画的に進めることができていました。

(3) 「堅実な経営」の実践

- ・消耗品・保育材料等の節約、使用の見直しを図り、削減を進めてきました。
- ・今年度は本部の指導を受けつつ、職員の駐車場を購入することができました。
- ・今後、研修体制の確立、それに伴う職員の待遇改善が大きな課題となっています。

3. 研修実績

(1) 施設内

- ・職員会（月1回）
- ・先任者会・主任会（随時）

(2) 施設外

- ・保育協議会部会（園長・主任・幼児・乳児・障がい児・給食）
- ・日本保育協会主催研修
- ・人権教育研修
- ・給食担当者会議
- ・三恵会主催研修
- 等

4. 行事実績(年間)

- 4月 入園式・健康診断・家庭訪問
- 5月 親子遠足・野菜苗植え・種まき・歯科検診
- 6月 保育参観・クラス懇談会・夕涼み会
- 7月 七夕会・プール開き
- 8月 プール大会・ライン引き・デイサービス交流
- 9月 敬老の日にちなんでの葉書投函
- 10月 運動会・お祭り集会
のま馬ハイランド遠足(年長児)・交通安全教室
- 11月 七五三・職場訪問(消防署、西原郵便局)
火遊び防止教室・シルエット劇場観劇
ブーク人形劇観劇・歯科検診・健康診断
- 12月 保育参観・もちつき・クリスマス会
クリスマスコンサート参加(十全総合病院)
- 1月 記念撮影・新居浜ネットワーク撮影
- 2月 節分・生活発表会（たのしいあつまり）・年長児お茶会
- 3月 交通安全教室・乳児遠足・お別れ遠足・お別れ会・卒園式
(毎月実施)身体測定・避難訓練 (随時)なかよしの日《異年齢交流》

5. 地域交流、ボランティア、実習生

(1) 地域交流状況

- ・お誕生会
- ・夕涼み会
- ・デイサービス交流
- ・運動会
- ・「たのしいあつまり」(生活発表会) 等

(2) ボランティア状況

《夕涼み会》

・十全看護専門学校 計 16名

(3) 実習生受け入れ状況

・十全看護専門学校	(小児看護学)	29名
・今治明徳短期大学	(保育実習)	1名
・松山東雲短期大学	(保育実習)	2名
・新見公立短期大学	(短期保育ボランティア)	1名
・新居浜西高等学校	(体験学習)	23名
・新居浜南高等学校	(体験学習)	1名
・新居浜南中学校	(職場体験)	6名
・新居浜北中学校	(進路学習講座)	10名
計 73名		

特別養護老人ホーム
ハートランド三恵

平成28年度事業報告

1. 経営方針

平成27年4月の介護報酬マイナス改定の影響緩和のため、短期入所及び通所介護の稼働率80%を目標としたが、9月下旬の疥癬の発症、12月下旬と2月下旬のインフルエンザの発症、3月上旬のノロウイルス等により利用者の制限を余儀無くされることとなり目標数値に届かなかった。また、入所者の入院が年間延べ1,908名(5.23名/日)にのぼり、収益に大きく影響した。

今後、入所部門においては、介護、看護、相談員、リハビリ、栄養士等多職種間の連携をより密にし、入所者の身体状況をより詳しく把握し、体調の安定に努めると共に、衛生管理やリスク管理をしっかりと行い、感染症や転倒・転落による骨折事故を防ぎ、長期入院に至らないように対応してゆく。

また、入院者の状況を把握し、入院期間を見極め、長期入院者の空きベッドを短期入所利用者へ提供するためにも、市内の居宅介護支援事業所や地域住民との信頼関係を深め、利用者、家族、ケアマネから選ばれる施設を目指し、新規利用・空床利用者の獲得に努め、柔軟な考え方の中でベッドコントロールを行う。

在宅部門においては、地域交流会や介護教室を継続して開催し、積極的に地域との関わりを持つことで、気軽に相談できる環境を作り、地域から信頼される施設を目指す。

昨今急増している重度の要介護者や認知症利用者の介護を的確に行えるよう、積極的に研修会等に参加し、情報を共有し、職員間で話し合い、協力し合える職場環境で自己研鑽してゆく。

近年新居浜市では福祉施設が多数開業しており、利用者や家族から選ばれないと経営が成り立たない。常に危機意識を持ち、「ハートランド三恵を利用したい」と言ってもらえるよう、職員一丸となり、笑顔で取り組んでゆく。

2. 重点課題、具体的な取り組み事項

(1) 一人のお年寄りを一人の大切な人として（誠実な福祉）

- ①ユニットケアの充実
- ②各職種間の情報共有と確実な実践
- ③5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）活動の取り組み

(2) 人財育成の充実（確実な知識と技術）

- ①自分で考え、自分で行動できる職員の育成
- ②先進的取組を行っている施設への研修
- ③施設内研修の改善

(3) 事故防止対策の充実と地域支援への取り組み（堅実な経営）

- ①事故の要因分析の徹底と業務改善の取り組み
- ②地域を支える在宅部門（短期入所・通所介護・居宅介護支援事業）の充実

③介護予防・日常生活支援総合事業の検討

3. 研修計画

(1) 施設内研修

①全職員対象

- ・研修報告及び伝達講習（7回）・テーマ別研修（8回）
- ・講演形式の研修（3回）・各種指針に基づいた研修（5回）

②部署毎

- ・月1回部署毎に会を持ち、改善や展望について意見交換
- ・2か月に1回ユニット毎に会を持ち、処遇の統一等の意見交換

(2) 施設外研修

- ・愛媛県老人福祉施設協議会、東予老人福祉施設協議会主催の研修会
- ・四国老人福祉施設関係者研究大会
- ・介護支援専門員の各種研修
- ・愛媛県、愛媛県東予地方局、新居浜市主催の各種研修会
- ・愛媛県社会福祉協議会、新居浜市社会福祉協議会主催の各種研修会

4. 行事予定（年間）

(1) 毎月の共通行事

- ・神事・誕生会・趣味活動・音の広場・カラオケ大会・外出（各種花見、外食等）
- ・手づくりおやつ・なかよし喫茶（毎週1回）・スライドシアター・絵手紙教室
- ・習字で学ぼう・健康体操・カレンダーブルクリ

(2) 月別行事

4月	・お花見	5月	・園庭での弁当給食・外出
6月	・おやつ作り	7月	・夕涼み会・七夕祭
8月	・夏祭り・ワークキャンプ	9月	・敬老会・観月会・個別外出
10月	・太鼓台・個別外出・ミニ運動会	11月	・紅葉見物・園児と交流
12月	・忘年会・クリスマス会・しめ縄作り・餅つき	1月	・新年会・初釜・七草粥・鏡開き・外出
2月	・節分・バレンタインデー・ふれあい訪問	3月	・ひな祭り・園児との交流・外出

5. 地域交流、ボランティア、実習生

(1) 地域交流

- ・夏祭り・地区太鼓台訪問（春、秋）・夕涼み会・敬老会
- ・萩生保育園（七夕訪問、夏祭り）・やすらぎの郷文化祭
- ・公民館活動への協力と交流・外出行事による社会活動
- ・地域での介護教室・地域交流会の開催（今後も継続）

(2) ボランティア活動

①職員ボランティア活動

・地域清掃（年2回）

②ボランティア受入状況

- ・ハートランドと手をつなぐ会（随時）・音の広場（毎週金・土曜日）
- ・コーラスグループ・楽器演奏グループ・傾聴ボランティア「クローバー」
- ・なかよし喫茶・萩生保育園・聖マリア幼稚園・大生院中学校
- ・新居浜南高等学校・習字で遊ぼう（月2回）・絵手紙教室（月2回）
- ・シルバー人材センター（餅つき）

（3）実習生の受入状況

- ・新居浜南高等学校・愛媛医療福祉専門学校

老人保健施設
リハビリステーション三恵荘

平成28年度事業報告

リハビリステーション三恵荘

1、経営方針

老人保健施設リハビリステーション三恵荘の当初経営方針「地域包括ケアシステム構築」の一翼を担い、加算型老健を目指し「ベッド稼働率を高いレベルで維持する」ことが施設経営の基盤であった。年間を振替っての結果として基本的経営方針の一部修正を行い経営の根幹である稼働率アップを第一に目指した。安定的稼働率95%を達成すべく積極的な対外営業ならびに職員の意識改革を行い、まだ道半ばではありますか入所稼働率86・9%対前年11%増、延入所者数で3931名の増となりました。

また、通所リハビリテーションは稼働率64・2%対前年1・9%増、延利用者数で162名増であり、その結果一定の增收を図り本来の老健経営の後姿が鮮明に見え当初目標の加算型老健への足がかりはできました。

2、重点課題と具体的な取組み

◎誠実な福祉

認知症ケアの充実・・・ユマニチュード研修受講による認知症に対する理解
と資質の向上を図る

防災対策の充実・・・備蓄品の新旧点検済、防火訓練時の土嚢作成講習
在宅支援機能の強化・・・体制の整備ができず未実施

◎確実な知識と技術

キャリア段位制度に基づく評価者の育成
未実施

各種研修会への参加・・・介護支援専門員の研修、ユマニチュード研修参加等
その他介護員資質向上の研修参加

資格取得の奨励と支援・・・介護福祉士2名合格

◎堅実な経営

入所・通所部門の稼働率アップ

上記、事業報告のように一定の達成感あり

在宅復帰・在宅療養支援機能加算の取得

目標稼働率未達成のため未達成

3、研修計画

- 施設内定例会における勉強会の実施
- 法人内発表会への参加準備完了
- 全国老人保健施設協議会全国大会での研究発表準備3題登録済

4、行事計画

入所及び通所リハビリテーションとも当初計画に基づき着実に実施済

5、地域交流

- (1) 夏祭り、太鼓台訪問、地元校区文化祭参加、徘徊SOSネットワークへの参画
ボランティア受け入れ
- (2) ボランティアによる音楽療法の実施、地域有志の歌レク、大正琴演奏の実施
実習生の受け入れ
- (3) 新居浜南高校生、ワークキャンプ（中学生）、今治工業高校生受け入れ実習済

老人保健施設
希 望 の 館

平成28年度事業報告

1. 経営方針

『堅実な経営』に向け3つの数値目標を掲げ取組んだ結果について報告する。

目標①：「入所+短期の稼働率95%を目指す」

結果：今年度の平均稼働率=96.0% ··· 達成率101%

目標②：「在宅復帰率30%以上を堅持する」

結果：今年度の平均在宅復帰率=43.2% ··· 達成率144%

目標③：「通所リハの稼働率80%を目指す」

結果：今年度の平均稼働率=72.0% ··· 達成率90.0%

●入所部門：上記のとおり今年度は入所稼働率と在宅復帰率が共に過去最高を更新することが出来た。このことは在宅復帰支援加算型と強化型が制度化されたH24年4月頃には考えられなかつたことであり、その意味ではとても感慨深いものがある。

加えて、僅かだが強化型への可能性を感じさせてくれた点にも大きな意味がある。

●通所リハ部門：残念ながら目標稼働率(80%)の達成は成らなかつた。先ずはこの結果を真摯に受け止め、今後はPDCAサイクルを駆使し改善に努めなければならない。大切なことは、職員個々が施設経営に対して当事者意識を持つことだと考える。その意味では、今年度途中からリハビリスタッフが祝日出勤をスタートさせたことは、各種加算をとるためにも大きな前進であったことは言うまでもない。

●居宅部門：産育休や体調不良等によりメンバーが落着かない状況の中、今年度末時点での契約件数は約130件/月であった。その中には、DS「えぐも」への利用者紹介も含まれており、これについては今後も出来る範囲の協力をお願いしたい。

◆以上、今年度は少し高めの数値目標を掲げ取組んだ結果、上記のとおりほぼ満足する実績を残すことが出来た。このことは多くの職員が施設の現状を理解し、この1年間一生懸命取組んでくれた賜物（成果）であると心から感謝している。

2. 重点課題と具体的な取り組みについて

(1) 「誠実な福祉」の実践（利用者のQOLの向上）

- ①「感染症からご利用者を守る。」⇒インフルもノロもほぼシャットアウトできた。
- ②「事故発生時の迅速且つ誠実な対応」⇒早期発見、原因分析、丁寧な説明と謝罪
- ③「説明力のアップ」⇒ご利用者、家族とのコミュニケーションに努めた。

(2) 「確実な知識と技術」の習得（職員の資質向上）

- ①「チーム力アップ」⇒お陰様で高い在宅復帰率を達成できた。
- ②「リスクマネジメント」⇒インフル等の感染症に対するリスク管理が定着した。

(3) 「堅実な経営」の維持（方向性一部修正 ⇒ 収益アップ \geq 経費削減）

- ①「在宅復帰率30%以上を堅持」⇒年間平均在宅復帰率43.2%を達成できた。
- ②「在宅復帰支援体制」の強化⇒入院が減少したことで逆に回転率が少し心配に！

3. 研修計画

(1) 施設内

新入職員研修 感染予防勉強会 認知症に関する勉強会 褥創予防に関する勉強会 事故対策に関する勉強会 虐待・身体拘束のための勉強会 プライバシー保護 接遇研修等メンタルヘルス研修など

(2) 施設外

三恵会法人研修 介護職員による喀痰吸引等研修
介護プロフェッショナルキャリア段位制度評価者講習
老人保健施設四国ブロック大会 食・口腔・栄養専門スタッフ養成講座
愛媛理学・作業療法士学会 介護支援専門員更新研修
その他虐待・身体拘束、褥創、感染、事故予防等に関する研修など

4. 行事計画（年間）

- 4月 お花見・やかた祭り
- 5月 カラオケ大会
- 6月 風船バレー大会
- 7月 七夕会・ビアホール
- 8月 縁日喫茶
- 9月 敬老会・アニマルセラピー
- 10月 運動会・地方祭
- 11月 文化祭（東温市）
- 12月 クリスマス忘年会（紅白歌合戦）・お餅つき
- 1月 新年会
- 2月 節分
- 3月 コール步步演奏会・菜の花ドライブ

5. ボランティア・実習生

(1) ボランティア受入状況

趣味クラブ（月2回）、民謡教室（月1回）、書道教室（月1回）、華道教室（月1回）オカリナ演奏（月1回）、ショッピング（月2回）、ともしび会（月1回）、サマーボランティア（年1回）、傾聴ボランティア（月1回）など

(2) 実習生の受入状況

学校等：十全医療学院 愛媛医療福祉専門学校 愛媛大学医学部
河原医療大学校看護学科

通所介護事業所
おいでんや

平成28年度 事業報告

通所介護事業所 おいでんや

1. 経営方針

- ① 受け入れ困難な事例(例:機械浴希望の対応・精神的に不安定な利用者・健康状態の悪化による車イス対応・住宅改修前の段差問題など) … がありましたが、対応可能な曜日を提案したり、送迎車両の組み換えをするなどし、できる限り受け入れてきました。
- ② 笑顔あふれるデイサービス … 年2回の個別外出や毎月の外食行事を通して、利用者・職員共に新しい面を知ることができ、徐々に遠慮も無くなり良好な関係が築けた1年になりました。
- ③ 過不足のないサービスの提供 … 荷物の持ち運び・入浴動作・食事の下膳など、できることはなるべく利用者ご自身でしていただくよう声を掛けました。中には進んでお手伝いをしてくださる利用者も出てきました。

2. 重点課題と取り組み

1) 稼働率の向上

- ① 数値目標 … 1日あたり 21.5名を目指して頑張ってきましたが、結果は 19.8名・稼働率 79.2%でした。目標には届きませんでしたが、前年度に比べると約2名ほど増えており、職員の意識も変わり、モチベーションもかなり UP した1年でした。
- ② 月2回の居宅介護支援事業所の訪問も継続して行い、問い合わせや体験利用者の紹介件数も増えてきています。28年度は、体験利用者13名のうち9名が契約に結びつきました。

あと、2)職員の資質向上 3)独創性を加味したサービスの展開 4)地域交流・ボランティア
5)記録の充実 については十分満足いくまで取り組めたわけではありませんが、例年同様の成果は残せました。

3. 研修計画

- 1) 施設内研修 ① ② については 85%以上の出席率、2)は、勤務の都合上難しい部分もありましたが、時間外の研修については可能な範囲で出席しました。

4. 年間行事計画

- ・毎月の行事(外食・買い物・おやつ作り・ともだちパークと交流・音楽療法(ピアノ演奏))などについては、計画通りに実施できました。
- ・5月の菖蒲見物は、開催時期の集中による場所の混雑があり、買い物ドライブに変更して実施しました。

4月	5月	6月	7月
・お花見 ・個別外出	・菖蒲見物⇒買い物 ・個別外出	・菖蒲見物	・夏まつり(合) ・七夕まつり ・社会見学
8月	9月	10月	11月
・社会見学	・個別外出 ・防火訓練	・いきいきフェスティバル ・太鼓台見物 ・個別外出	・校区文化祭 ・紅葉見物
12月	1月	2月	3月
・もちつき(合) ・クリスマス会 ・忘年会	・初詣 ・書初め ・初金	・カラオケ大会(合) ・節分 ・梅見物	・ひな祭り ・防火訓練

※ 毎月開催行事 ... 外食・買い物
 音楽療法(ピアノ演奏)
 ともだちパークと交流
 十全総合病院より売店来館
 おやつ作り

多機能型事業所
わくわくクラブ

平成28年度 事業報告

多機能型事業所わくわくクラブ

1. 経営方針

多機能型事業所わくわくクラブは生活介護(定員25人)と放課後等デイサービス(定員10人)の2事業の通所事業所として、障がいを持つ方々のニーズに沿った支援を行いました。障害者総合支援法・児童福祉法を踏まえた支援の展開に加え、本年度は障害者差別解消法が施行され、障がいを持つ方が、生まれた地域で安心して生き生きと社会参加を果たして行けるよう、社会の障壁解消や人権尊重の精神の理解に努め実践してまいりました。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 受入体制の充実

生活介護は、特別支援学校との情報交換を図り、特別支援学校卒業者1名を受け入れ、また、相談支援事業所よりの紹介で2名の中途利用に結び付けました。

放課後等デイサービスでも、選んでいただける支援体制を模索し、環境整備や職員のスキルアップに積極的に取り組みました。その結果、新一年生3名、年度途中の新規利用希望者2名の利用に結び付けました。

(2) 支援内容の充実

- ① 利用者及び家族が、安心して地域生活を送ることが出来るための支援を、関係各機関と連携を取って進めました。特に計画相談制度における、計画相談員との連携による利用者の希望に沿った個別支援計画の策定や実践を行いました。
- ② 生活介護事業では、希望者には業者請負作業を通じて社会参加の機会を提供しました。また、自主生産品の充実、さらには、スポーツや音楽、作品展などの地域行事への参加を支援メニューに取り入れて、より豊かな社会参加が出来ました。
- ③ 障がいを持つ方の理解促進や社会参加の拡充を理念とした5月の愛媛県障がい者スポーツ大会には、来年度に愛媛国体が開催されることもあり、できるだけ多くの利用者に参加を働きかけました。

(3) ネットワークづくり

一年に数回家族に来所していただき、家族と利用者・職員の相互理解及び家族間の情報交換・交流の場を設定いたしました。2月に実施した家族交流会では11名のご家族が参加していただき、有意義な時間を共有することができました。

3. 研修計画

(1) 施設内研修

- ・職員全体会・スタッフ会・フロア会(月1回)

職員の資質向上に向けてコミュニティハウス三恵での職員研修を実施しました。館内各委員会による研修及び法人人材バンクの活用、外来講師による研修等を行いました。

- ・生活介護・放課後等デイサービスに関わる職員として、必要な知識やスキルアップのための勉強会や研修をフロア会等の機会をとらえて事業所内で実施しました。

(2)施設外研修

- ・三恵会法人研修および関係機関からの研修案内には積極的に参加しました。
- ・先進福祉施設や福祉関係機関からの研修情報を活かし、福祉施設職員として資格取得や毎日の支援の根拠となる研修へは問題意識をもって参加しました。

3. 行事計画

4月	5月	6月	7月
<ul style="list-style-type: none"> ・お花見 ・河川敷での運動 ・黒島公園外出 ・放課後等デイサービス新規利用者受け入れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・愛媛県障がい者スポーツ大会参加 ・お菓子作り ・カローリング教室 ・マイントピア ・医師の健診 	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物練習 ・陶芸作品製作 ・おやつ作り ・コロッケ作り ・公園外出 	<ul style="list-style-type: none"> ・七夕祭り ・夏祭り(合同行事) ・福祉の集い参加 ・お菓子作り ・映画鑑賞 ・個別買い物
8月	9月	10月	11月
<ul style="list-style-type: none"> ・マリンパーク ・おやつ作り ・医師の健診 ・プラネタリウム ・一日外出 (移動水族館) ・おやつ作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・滝の宮公園 ・科学博物館 ・消防訓練 ・公園外出 ・敬老の日交流行事 ・公園外出 	<ul style="list-style-type: none"> ・マリンパーク外出 ・地方祭 ・生き生きフェスティバル ・さつま芋販売 ・公園外出 ・4F・2F 合同カラオケ 	<ul style="list-style-type: none"> ・日帰り旅行 (屋島水族館) ・神郷校区文化祭 ・やすらぎ文化祭 ・医師の健診 ・カローリング教室
12月	1月	2月	3月
<ul style="list-style-type: none"> ・イオン展示会 ・十全総合病院クリスマスコンサート参加 ・クリスマス会 ・もちつき ・忘年会 ・芋ほり・焼き芋づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・初詣 ・成人のお祝い ・おやつ作り ・冬の七夕飾り出品 (新居浜商店街連盟賞 受賞) ・カローリング教室 ・初詣 ・個別買い物 	<ul style="list-style-type: none"> ・節分 ・全館カラオケ大会 ・医師の健診 ・ジャングルフェスティバル参加 ・家族交流会 ・節分 ・おやつ作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひな祭り ・新規利用者歓迎会 ・食事会(家族交流) ・消防訓練 ・公園外出 ・調理実習 ・一日外出 (砥部動物園) ・個別外出

※毎月、清掃ウォーキング・体育館での運動・図書館利用・他施設との交流等も行う。

放課後児童クラブ
ともだちパーク

平成28年度 事業報告書

放課後児童クラブ（ともだちパーク）

1. 経営方針

(1) 働く女性の支援

『安心して子どもを育てながら、働きたい』の働く女性支援の原点に、安全に生活が出来る場所として、子どもたちの成長を保護者の方と一緒に喜びあうことが出来ました。

(2) 交流の場

今年度は、1年生の利用者が20人、登録者合計数65人でスタートしました。途中、利用を開始する子どもも、引越しやお母さんの就労状況が変わり退所する子どももいましたが、いろいろな地域や異年齢とのかかわりの中で、子ども達も色々な経験や友だちとのつながりが出来ているのを実感する出来事がたくさん有りました。

また、今年度も卒業生を3名送り出すことが出来ました。

(3) 民間の児童クラブの特徴

早朝・延長時間の受け入れ・学校が台風などで臨時休校になった場合の受け入れ・長期休暇時の行事の充実・昼食の提供・高学年の受け入れ・他校との交流・高齢者との交流など、保護者のニーズに添った運営をしてまいりました。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 利用児童の定員確保・料金の見直し

- ・平日構成する利用希望者の児童数平均36人~45人を目指し、年間平均36.3人になりました。
- ・パンフレットの見直しをおこない、川東地区の小学校の新入生に向けて小学校健康診断の日に入会案内書を、放課後等デイサービスと一緒に配布しました。
- ・三恵会、十全グループの職員割引（登録料）を実施
- ・重要事項説明書を説明し、利用者保護者の同意書を頂く
- ・愛顔の子育て応援アプリ『きらきらナビ』から、ともだちパークの情報を検索することが出来ます。

(2) 放課後児童の健康管理、安全確保、情緒の安定

- ・来館時の手洗いやうがいを行い健康管理の徹底
- ・流行性の疾病対策、室内などの消毒
- ・学校へ各学年の下校時間に合わせてのお迎えと共に交通安全
- ・ひとりひとりへの言葉かけの配慮とともに保護者への連絡

(3)遊びや宿題等の学習活動に関する援助

- ・玩具の安全確認や正しい遊び方など、ひとりひとりに寄り添いながら集団遊びへの誘導
- ・来館後に宿題が取り組める環境を整え、声かけを行いサポート

(4) 基本的生活習慣の習得に関する援助

- ・自分の持ち物の片付けや遊んだ物の片付けの声かけ
- ・食事やおやつなどのマナーや来館時のあいさつなどの指導
- ・良い事・してはいけない事の区別がつくよう声かけ

(5)発達支援児への対応

- ・家庭や学校との連絡を取りながら、学童での生活に慣れる工夫を行う

(6)職員の心構え

- ・フロア会を随時行い、共通意識を持ち取り組む
- ・研修会に積極的に参加し、指導員としてのスキルアップを目指す
- ・放課後児童支援員認定資格を取得
- ・無駄のないよう意識を持つ

(7)交流

- ・にこちゃんパーク・おいでんやとの交流
- ・館内合同行事の参加（誕生会・夏祭り・スタンプラリー・もちつき・館長杯カラオケ大会等）
- ・10周年記念誌発行と同時に、卒業生にアンケートを実施

3. 研修計画

- ・平成28年度 放課後児童支援員認定資格研修
- ・平成28年度 放課後子ども総合プラン指導者研修会

4. 行事報告

1学期	・東浜公園・お話会（回転木馬）
夏休み	<ul style="list-style-type: none">・合同行事～夏祭り・誕生会・プール遊び・多喜浜体育館で運動遊び・東浜公園・陶芸の絵付け・工作（手形足型アート・フォトフレーム・プラ板等）・虫取り・ホットケーキ作り・ラスク作り・お楽しみ会（すいかわり・新聞ゲーム等）・高専出前講座『液体窒素の実験』・出前講座『たまごと楕円の積木あそび』『交通安全教室』・お話会（回転木馬）・ボランティア『押し花制作』・おいでんやの食事配膳の手伝い・にこちゃんパークの誕生会等
2学期	<ul style="list-style-type: none">・合同行事～もちつき大会・スタンプラリー・敬老の日プレゼント作り・生き生きフェスティバルの作品作り・クリスマスの飾り付け・避難訓練・黒島海浜公園・牛乳パック工作・やすらぎの郷文化祭と神郷地区文化祭に作品展示・にこちゃんパークの誕生会等
3学期	<ul style="list-style-type: none">・初詣（八幡神社）・合同行事～館長杯カラオケ大会・東浜公園・折り紙・紙飛行機・なわとび・避難訓練・にこちゃんパークの誕生会等
<外出>	<ul style="list-style-type: none">・東浜公園・黒島海浜公園・多喜浜体育館・八幡神社
<出前講座>	<ul style="list-style-type: none">・液体窒素実験（高専）・「回転木馬」による本の読み聞かせ・たまごと楕円の積木あそび・交通安全教室
<ボランティア>	<ul style="list-style-type: none">・押し花制作

※ 毎月 「おいでんや」との交流を実施

※ 隨時 「にこちゃんパーク」との交流を実施

地域子育て支援事業(ひろば型)
にこちゃんパーク

平成28年度事業報告書

地域子育て支援事業 (にこちゃんパーク)

1. 経営方針

(1) 交流の場と居場所の提供

乳幼児の親子が安心して過ごせれる場所として、予約無しで利用でき、ゆったりとした雰囲気が喜ばれました。

(2) 子育て相談

子育て中の親子同士の出会いを通して、情報交換など交流も見られました。

(3) 情報の共有

市役所（子育て支援課）を中心に、子育て支援事業全8施設で、情報交換を行い、交流を持つことで、よりよい支援に繋げました。

2. 重点課題と具体的な取組

(1) 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進が出来ました

(2) 子育て等に関する相談、援助の実施

- ・市政だよりに開所の曜日・時間を記載し、電話での相談を受ける。
- ・子育て支援課の紹介で、子育てに不安な親子（母親）が来館し、不安が少しでも解消できるようなかかわりを持ちました。

(3) 地域の子育て関連情報の提供

- ・市役所のホームページに、にこちゃんだよりの掲載、川東の公民館や十全総合病院にもにこちゃんだよりをおかさせていただきました。
- ・利用者様の口コミでも、新しいご利用者様も増え、また、弟や妹が産まれ遊びに来てくれる方もいます。

(4) 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施

- ・つくってあそぼうで毎月季節を感じられるおもちゃ作りを紹介
- ・お話会（回転木馬）や木の玉プール（大五木材）・親子でヨガ（村上氏）のボランティアに定期的に来て頂きました。

3. 研修計画

- ・市役所（子育て支援課）を中心に、子育て支援事業施設・全8施設の連絡協議会（年6回）に参加（県外施設の視察）

4. 行事計画

めあて：季節を感じながら親子で楽しく過ごす

毎月：お話会（回転木馬さん）・誕生会（写真と手形入り誕生カード）

つくって遊ぼう（工作）・身体測定（成長記録カード）

親子でヨガ（9月より）・子育て相談・カレンダー作り（3月より）

随時：小学生・高齢者・障がい者との交流

昼食タイム（12:00から13:00）

	つくって遊ぼう	誕生会・その他
4月	かぶと	絵本・パネルシアター・エプロンシアター 親子体操・小学生による誕生会(絵本・歌・踊り)
5月	びっくり箱	手遊び歌・絵本・紙芝居・パネルシアター エプロンシアター・ふれあい体操 リズムあそび(親子の触れ合いあそび)
6月	ミニメンバー	小学生による誕生会(絵本・歌・紙飛行機) 手遊び歌・絵本・うちわシアター・紙芝居 パネルシアター・野菜販売(タマネギ・じゃがいも)
7月	七夕笹飾り	木の玉プール(大五木材)・小学生と交流 館内合同(夏まつり)・うちわシアター 絵本・手遊び歌・パネルシアター
8月	うちわ 「コミュニティハウス三恵 10周年記念」	小学生による誕生会(手遊び歌・絵本・イス とりゲーム等)・小学生と交流(積木あそび) 手ぶくろシアター・パネルシアター シーツ親子ふれあい遊び
9月	クルクルストロー	絵本・手遊び歌・避難訓練・わらべ歌あそび 紙芝居・パネルシアター・エプロンシアター しゃばん玉・親子でヨガ・リズム遊び
10月	太鼓台作り	ふれあい遊び・パネルシアター・絵本 パタパタシアター・紙芝居・手遊び歌 高齢者との交流・避難訓練・親子でヨガ
11月	風車	絵本・手遊び歌・校区文化祭に写真展示 小学生との交流・ペーパーシアター パネルシアター・親子でヨガ 野菜販売(さつまいも)
12月	クリスマスツリー	木の玉プール(大五木材)・絵本・手遊び歌 パネルシアター・リズムあそび(楽器) エプロンシアター・紙芝居・バランス積木 親子でヨガ
1月	鬼のお面	年賀状・絵本・パネルシアター・手遊び歌 小学生との交流・折り紙あそび 紙ふうせん遊び・親子でヨガ
2月	ひなかざり	絵本・手遊び歌・紙芝居・パネルシアター 楽器あそび・小学生との交流・親子でヨガ
3月	ペットボトルマラカス	木の玉プール(大五木材)・避難訓練・紙芝居 エプロンシアター・絵本・パネルシアター ふれあいあそび・楽器遊び・親子でヨガ 4月のカレンダー作り

ユニット型地域密着型老人福祉施設
うみかぜ

平成28年度事業報告

1. 経営方針

平成28年度の施設運営も厳しくなることは予想されていたため、適切なベッド調整が必要と考え「空床をつくらない」を目指し、ショートステイ事業と連携を図りながら取り組みました。「利用者の健康管理に努めることで長期入院の軽減化を図る」「細目に入所待機者の状態把握をすることで、スムーズに入所受け入れをする」等に努力し運営を実施しました。しかし、補正予算時に厳しい経営状態であることがわかり、年度末までにショートステイの稼働率アップと人員配置の見直し等の業務改善を職員に周知し、残り3ヶ月間で経営の挽回を図るよう取り組みました。小規模施設の経営の厳しさを痛感した一年でした。

認知症ケア技術「ユマニチュード」のセミナーに多くの職員が参加し、感銘を受け「うみかぜ」にも導入するために、3名が「ユマニチュード入門研修」（東京にて開催）に参加いたしました。全職員に浸透するように伝達研修を実施し、少しづつ成果にも繋り、利用者が最後の日まで尊厳をもって生活できるように、今後も全職員で取り組んでまいります。又、個別のニーズの実現のために24時間シートをもとにカンファレンス、ユニット会を実施し、希望に沿った生活スタイルの実現を支援できるように努めました。

地域活動として、交流サロン「認知症カフェ」「移動販売」を実施してきました。地域の方や近隣の施設の方が数名定期的に参加してくださるようになりましたが、今後活性化に向けて広報や内容の工夫が必要であると考えています。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 「誠実な福祉」の実践

①「認知症カフェ」を通じて地域交流を活性化したいと考えていたが、地域の方の参加が

少なく、入所者が家族と参加されることが多かった。

②利用者の体調の変化を早めに察知し、主治医、家族への報連相を適切に実施した。緊急の受診等は少なかった。

③「施設ケア向上委員会」を中心に挨拶運動を実施し職場が明るくなるように努めた。

(2) 「確実な知識と技術」の習得

①介護技術のステップアップのシステム化の構築を目指したが実現できなかった。毎月の全体会で介護技術のワンポイントレッスンとして勉強会を実施。（ヒヤリハットより）

②月始の朝礼にて各部署の目標の成果を発表し、達成に向けての取り組みの検討を実施。

③認知症の学びについては全体会、ユニット会にて事例検討を行いながら学びを深めた。

(3) 「堅実な経営」への取り組み

- ①ショート稼働率は81%（目標85%）であった。4月に感染症のため利用の制限を実施。年度末1～3月の平均稼働率が94%まで挽回したが目標達成に至らなかった。
- ②健康状態の把握と早期受診に心がけ、入院による長期空床を軽減できた

3. 研修実績

(1) 施設内研修

<全職員対象> •緊急時の対応（外部講師1回） •認知症ケア（2回内外部講師1回）
 •グループ討議（1回） •各種指針に基づいた研修（8回内外部講師1回）

<介護・看護対象> •喀痰吸引研修の実地研修

(2) 施設外研修

•愛媛県主催認知症介護実務者研修 •県、東予地区老人福祉施設協議会各種研修会
•愛媛県地域密着型サービス事業所各種研修会 •ユマニチュードJapon主催研修会
•愛媛県喀痰吸引研修会 •西条保健所主催研修会 •日本福祉車両財団講習会
•ユニットケア推進協会リーダー研修 •愛媛県看護協会 •在宅医療連携セミナー
•介護労働安定センター主催研修会 •青年経営者協議会主催研修会

4. 行事実績

(1) 毎月の共通行事

•誕生会（個別） •ユニット活動（手づくりおやつ、作品づくり、個別外出）
•選択食 •モーニング朝食 •3B体操 •生け花 •移動販売 •めぐみカフェ

(2) 月別行事

4月 花見	5月 ドライブ（ふじ、芍薬見物）
6月 恵海まつり、観音大祭	7月 ソーメン流し 防火訓練
8月 ビアガーデン 市長・議長訪問	9月 敬老会、芋炊き
10月 運動会、家族交流会、太鼓台訪問	11月 にぎり寿司バイキング
12月 クリスマス会、餅つき	1月 初詣、お茶会
2月 節分、にぎり寿司バイキング	3月 防火訓練、防災避難訓練

4. 地域交流、ボランティア

(1) 地域交流

•恵海祭り •太鼓台訪問 •東浜自治会との交流（運動会、文化祭、芋たき、カラオケ大会） •近隣施設との交流（ニチイ学館、GHしおさい） •運営推進会議（2ヶ月に1回） •めぐみカフェ •職員地域清掃（月1～2回）

(2) ボランティアの受け入れ

・ギター演奏　・歌（ワンマンショー、デコボココンビ、松尾貴臣、オライオン、あれや）　・生け花　・百福クラブ　・琴衛会　・ミスター・マリック　・大西社中
・バトン高津っ子　・浜っこ弾だん　・ジャグリング　・ワークキャンプ　・多喜浜
保育園

グループホーム
かがやき

平成28年度事業報告

1. 経営方針

平成28年度の退所者数は4名でした。待機者へのアプローチを迅速に実施し、空床期間をできるだけ短くするように努めました。(稼働率は99.7%)

私たちが認知症の特性をより理解し、一人ひとりに合わせたケアを提供することで利用者が安心して健やかに、楽しく過ごしていただけるように以下の4点を重点に運営していました。

- (1) 職員の認知症の理解と対応力の向上に努める。 認知症介護実践研修修了者が核となって、ユニット会等にて個別の対応を話し合い統一したケアを実践しました。又「うみかぜ」職員と共に「ユマニチュード入門研修」に1名参加し、伝達研修を実施しました。
- (2) 望みや願いを叶える「夢プラン」を実施。 利用者と1対1の会話の機会を増やし「気づきファイル」の内容をまとめ共有し、チーム全体で取り組むことができた。
- (3) 自信と意欲を引き出す。 五感を刺激するユニット調理やおやつ作りを週1回実施し、食事の準備から片付けまでの一連を職員と共にを行い、利用者の自信と意欲に繋げることができた。
- (4) 運営推進会議の見直しを行う。「うみかぜ」と合同で実施することとし、報告内容等の改善を行った。「移動販売」「めぐみカフェ」に積極的に参加し、近隣施設や地域の方と交流を図ることができた。

また、感染症時期(12月～3月)には外出や行事の制限があり、利用者のストレス解消のために、ドライブや散歩などを細目に実施し、個別のユニット活動等も積極的に提供した。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 「誠実な福祉」の実践

- ①認知症カフェを通じて地域交流の活性化を考えていたが、地域の方の参加は少なかつた。入所者が家族と参加され非日常的な雰囲気を実感していただく効果はあった。
- ②計画書を作成し外出を実行するよう変更し、職員の都合で中止することが減少した。
- ③「施設ケア向上委員会」を中心に挨拶運動を実施し職場が明るくなるように努めた。

(2) 「確実な知識と技術」の習得

- ①介護技術のステップアップのシステム化の構築を目指したが実現できなかった。毎月の全体会で介護技術のワンポイントレッスンとして勉強会を実施。(ヒヤリハットより)
- ②月初の朝礼にて各部署の目標の成果を発表し、達成に向けての取り組みの検討を実施。
- ③認知症の学びについては全体会、ユニット会にて事例検討を通じて学びを深めた。
- ④「気づきファイル」の内容をユニット内で共有し、アセスメント力の向上に努めた。

(3) 「堅実な経営」への取り組み

- ①稼働率 99.7% であった。常に待機者へのアプローチを行いスムーズな入居に繋ぐことができた。
- ②健康状態の把握と早期受診に心がけ、入院による長期空床を軽減できた
- ③毎月主任会にて現状報告があり、職員に経費節減の意識が定着し効果があった。

3. 研修実績

(1) 施設内研修

- ・緊急時の対応（外部講師 1回）
- ・認知症ケア（2回内外部講師 1回）
- ・グループ討議（1回）
- ・各種指針に基づいた研修（8回内外部講師 1回）

(2) 施設外研修

- ・愛媛県主催認知症介護実務者リーダー研修
- ・ユマニチュード Japon 主催研修会
- ・西条保健所主催研修会
- ・日本福祉車両財団講習会
- ・社会福祉協議会
- ・介護労働安定センター主催研修会
- ・在宅医療連携セミナー
- ・愛媛県地域密着型サービス事業所各種研修会

4. 行事実績

(1) 毎月の共通行事

- ・誕生会（個別）
- ・ユニット活動（手づくりおやつ、作品づくり、個別外出）
- ・選択食
- ・モーニング朝食
- ・3B 体操
- ・生け花
- ・移動販売
- ・めぐみカフェ

(2) 月別行事

4月 花見	5月 ドライブ（ふじ、芍薬見物）
6月 恵海まつり、観音大祭	7月 ソーメン流し、防火避難訓練
8月 ビアガーデン、市長・議長訪問	9月 敬老会、芋炊き
10月 運動会、家族交流会、太鼓台訪問	11月 にぎり寿司バイキング
12月 クリスマス会、餅つき	1月 初詣、お茶会
2月 節分、にぎり寿司バイキング	3月 防火・防災避難訓練

1. 地域交流、ボランティア

(1) 地域交流

- ・恵海祭り
- ・太鼓台訪問
- ・東浜自治会との交流（運動会、文化祭、芋たき、カラオケ大会）
- ・近隣施設との交流（ニチイ学館、GH しおさい）
- ・運営推進会議（2ヶ月に1回）
- ・めぐみカフェ
- ・職員地域清掃（月 1～2回）

(2) ボランティアの受け入れ

- ・ギター演奏
- ・歌（ワンマンショー、デコボココンビ、松尾貴臣、オライオン、あ

ざれや) · 生け花 · 百福クラブ · 琴衛会 · ミスター・マリック · 大西社中
· バトン高津つ子 · 浜っこ弾だん · ジャグリング · 多喜浜保育園

兒 童 福 祉 施 設
中 萩 保 育 園

平成28年度 事業報告

1、経営方針

子ども・子育て支援新制度がスタートして2年、保護者の勤務に合わせた支給認定、保育園の利用の仕方にも問題なく切り替えができるようになっています。また、保育園に求められるものが多様化する中、「今、子どもに何が大切か」を考え、一日一日、丁寧に子ども達の育ちに向き合い保育してきました。新制度では、子育ての第一義的責任者は保護者としているものの、子育てが未熟で虐待に繋がる恐れがある家庭もあり、子育て支援課、女性子ども支援センターなどの専門機関と連携をとりながら子育て支援を行っています。

また、障がいのある子ども達が多く在籍しており、その一人一人の特性を見極めた保育、働きかけにより子どもが安心して生活ができ、クラスの一員として協調することができるよう保育してきました。今後も障がい児保育の専門性を高めながら子どもと保護者に寄り添い支援をしていきたいと思います。

多様化、複雑化している保育現場では、保育士の負担が大きくなっています。中萩保育園では、職員の経験が浅いため「みんなで支え合う」「知恵を出し合う」など、職員間の連携が大切になります。今後も職員のチーム力で「子ども一人一人の発達に寄り添った保育の実践と信頼して頂ける保育園づくり」を基本に取り組んでいきたいと思います。

2、重点課題と具体的な取り組み

(1) 「誠実な福祉」の実践

①子どもの健康・安全な生活を保障する

- ・朝の受け入れ時の視診、検温などの健康観察を行い、元気に生活できるように努めた。
- ・廊下クロスの張り替え、保育室のカーテン、ブラインドの設置など環境整備を行った。
- ・セコムに依頼し防犯対策に努めている。
- ・ヒヤリハットを細かくとらえ記入することができたが、ケガに繋がることもあったので、今後も乳幼児期の子どもの発達を理解し、安全保育ができるよう研修を行っていきたい。

②子どもの健やかな発達を目指した保育

- ・子どもの気持ちに共感することで安心して生活でき、「自分でしてみよう」という気持ちを大切に保育してきた。
- ・基本的生活習慣の確立では、個人差を踏まえその子に合ったペースで成長できるよう丁寧な保育に心がけた。今後も焦らず丁寧に関わっていきたい。
- ・戸外遊びを通して体力づくり（マラソン、ボール遊び、鉄棒等）に取り組んできた。
- ・白山神社やキラキラ公園まで散歩に行き自然に触れたり、散歩を通して交通ルールを身に付けたりできるよう取り組んでいる。今後も心身ともに健やかに成長できるよう保育していきたい。

③専門機関、教育機関、他施設との連携

- ・年2回、十全総合病院小児科（占部Dr）,藤田歯科クリニック（藤田Dr）による検診を受けた。その結果を保護者に伝え、早期治療に繋げている。
- ・住友病院眼科による年中児の眼科検査、発達支援課による年長児の発音検査を行い、早期発見早期治療に繋げている。
- ・発達支援課による巡回相談、就学前相談を受け、支援を必要とする子どもが無理なく集団で生活ができクラスの一員として協調できるように保育している。また、保健センター、子育て支援課、東予こども女性支援センターと連携を取りながら母親支援を行っている。今後も各機関と連携を取りながら子どもの発達を支援していきたい。
- ・視聴覚センター、鷹ノ子病院の医師との連携。
- ・中萩小学校での幼保小連絡協議会への参加。授業参観、話し合いによる情報交換を行った。運動会、お祭り集会などにも参加した。
子ども達が小学校生活に期待を持って就学できるよう今後も交流していきたい。

*各機関との連携は今後も大切にしていきたい。

○老人施設むつみの家と連携を取り災害時の協力体制を話し合ったり、夕涼み会、クリスマス会等の行事に招待したり、慰問に行ったり交流を深めている。

④危機管理対策

- ・毎月、各災害を想定しながら避難訓練を実施。問題点、反省点を職員間で話し合い子ども達が安全に避難できるよう取り組んでいる。28年度は、乳児の防災ずきんを購入した。また、保護者が防災マニュアルを閲覧できるよう廊下本棚に配置している。掲示板に避難経路を掲示し保護者にも知らせている。
- ・セコムに依頼し防犯対策に努めている。
*今後も職員間で危機管理について話し合い、確認することで防災、防犯意識を高めていきたい。

(2) 「確実な知識と技術」の修得

①職員の資質向上

- ・保育協議会主催の研修、日本保育協会主催の研修、三恵会主催の研修などに参加し資質向上に努めた。
- ・自己評価に当たっては、子どもの活動内容や結果だけでなく、子どもの育ちや意欲に繋がったなどを評価、反省しながら保育した。また、職員間での話し合い、共通理解をすることで保育の質の向上に繋げていけるようにした。
日々いろいろなことに直面しながらも、職員一人一人は前向きに取り組み一生懸命頑張っている。
*今後も研修、経験を重ねながら専門性を身につけ、また、社会人としても成長していくって欲しい。

②専門性の充実

- ・保育園で働く全ての人が子どもに対しての人的環境である。言葉遣い、身だしなみ、行動等、子どもの成長に与える影響は大きい。職員一人一人が丁寧に子ども達に関わり保育するよう心がけた。
- ・保育課程に基づいて各クラス年指導計画、月指導計画、週（日）指導計画、個人別月指導計画、個人別週（日）指導計画、各行事の指導計画を立て、ねらいをもって保育に取り組んだ。
- ・看護師による健康観察、感染症予防についての情報提供などを行った。
- ・栄養士による食育活動（野菜の菜園、収穫、クッキング、試食会など）
アレルギー児の除去食、肥満傾向にある子どもの食について保護者と懇談を行いながら食事の提供と食生活に関する指導、相談を行った。
＊毎月、園だより、クラスだより、保健だより、給食だよりを配布した。

（3）「堅実な経営」の実践

- ・途中入所児童の受け入れを行うことができた。
今後も保育室の面積、職員数に応じた入所児童数を確保していきたい。
- ・保育室、園庭遊具等の安全チェックを行い、危険個所は随時修繕を行った。
大きな修繕では、廊下のクロスの張り替えを行った。
- ・日々、忙しく業務に追われている中にも、子どもの成長、保護者からの声かけを通し、保育の仕事に対するやりがいを感じられるよう、今後も働きやすい環境づくりをしていきたい。
- ・職員間で話し合い無駄をなくすよう取り組んできた。

3、研修実績

（1）施設内

職員会、クラスの状況報告、給食検討会、けがの報告、安全対策委員会、先任者会、主任会

（2）施設外

保育協議会主催の研修、日本保育協会主催の研修、
保育協議会部会（園長、主任、幼児、乳児、障がい児、給食）
日本保育部会（園長、主任、給食）、就学前人権同和教育
三恵会本部主催の研修

4、行事実績（年間）

- 4月 入園式、家庭訪問、園児健康診断、園児歯科検診、年長児発音検査、野菜収穫
- 5月 遠足、保育参観（試食会）、年中児眼科検診、
看護の日（第二十全より花プレゼント）
- 6月 夕涼み会、プール開き、
- 7月 プラネタリウム見学、七夕集会、パーク人形劇観覧
- 8月 プール大会（バイキング給食）
- 9月 ちろりん劇場観覧、敬老の日ハガキ投函、
- 10月 運動会、お祭り集会、交通安全教室、生き生きフェスティバル作品出展、
やすらぎの郷文化祭作品出展、園児健康診断、園児歯科検診
- 11月 親子遠足、シルエット劇場観覧、職場訪問、
中萩文化祭作品出展、火遊び防止教室
- 12月 保育参観、おもちつき、クリスマス会、むつみの家クリスマス会参加、
新入園児申請書受付、在園児家庭現況届提出
- 1月 もうすぐ1年生撮影
- 2月 節分、たのしいおあつまり（発表会）、祖父母招待、記念撮影
- 3月 ひな祭り集会、交通安全教室、お別れ遠足、お別れ会、卒園式
＊毎月実施…誕生会、異年齢児交流、食育活動、避難訓練、身体測定など

5、地域交流、ボランティア、実習性

（1）地域交流状況

夕涼み会、ちろりん劇場観覧、運動会、発表会などに地域の方を招待した。

（2）実習性受け入れ

松山東雲短期大学（3名）

（3）体験学習の受け入れ

中萩中学生（79名）

養護老人ホーム
新居浜市立慈光園

平成28年度 事業報告

新居浜市立慈光園

1. 運営方針

利用者的心身の低下による支援の増加や、精神疾患を持った方が新たに入所される方も多くなるなど自立生活困難者や要見守者の増加に伴い、利用者の健康状況を把握に努め自主性を尊重し一人ひとりの有する能力に応じた処遇の向上に向け、デイサービスなどの介護保険サービスの利用や地域交流、園内行事を通じて健康維持や日常生活での自主性をそこなうことなく安心して穏やかに送れるように支援に努めてまいりました。

また、医療機関や介護福祉施設と連携を図り、生きがいを持って日常生活を送れるよう自立支援に必要で有効なデイケアやデイサービスの有効利用を進め、利用者の生活力を高め社会参加の助長を継続して行う事を指定管理者として支援してまいりました。

2. 重点課題と具体的取り組み実績

(1) 利用者本位の支援の充実(誠実な福祉)

- ①利用者一人ひとりの特性の把握に努め、各々の状態に合った処遇計画を作成し、掃除、洗濯、着替えなど日常生活を可能な限り自分で行えるように努めました。
- ②利用者朝礼において唄、軽体操を通して健康維持を図りました。
- ③生きがいを持って過ごしていただけるよう、クラブ活動、カレンダー作り、レクレーションの実施や、他の団体が主催するイベント等への出展、創作活動などを積極的に推進し、生活意識の向上に努めました。
- ④庭木の手入れ、水やり、草引きや菜園での花や野菜作り等共同作業を通して自立した生活を促すよう努めました。
- ⑤嗜好調査により希望を考慮し、季節感や彩に配慮したおいしい食事の提供に努め、また、衛生管理と食品管理を適正に行いました。

(2) 地域社会に貢献できる施設づくり(誠実な福祉)

- ①夏祭り（盆踊り大会）を開催し地域住民の方々の参加をいただき交流を進めてまいりました。
- ②金栄小学校や公民館が主催する文化祭、運動会などに積極的に参加するとともに、園で実施する出前講座に地域の方の参加できるよう公民館へ案内し参加を呼び掛けました。
- ③園近隣での清掃活動を月1回程度実施や金栄小学校の1年生を対象とした下校時の見守り活動を実施しました。

(3) 地域の社会福祉資源の有効活用（確実な知識と技術）

- ①当園での生活が困難となった利用者に対し嘱託医、協力医療機関や介護関係事業所等と連携し、その人に適した施設へ処遇替えに努めました。
- ②処遇計画に基づき、デイサービスなどの介護サービスの利用により、心身の健全化に努めました。

(4) 人材育成の推進(確実な知識と技術)

- ①他施設の協力を得ての介護技術の向上や老人福祉施設協議会等が開催する各種研修会に参加し知識と技術の向上と福祉資格の取得を図ってまいりました。
- ②事故防止感染症対策委員会等に置いて個々の問題解決を図ることにより職員の資質の向上に努めました。

(5) 効率的な施設運営(堅実な経営)

- ①物品の適正な在庫管理に努めるとともに購入にあたっては見積りを取るなどの経費削減に努めました。
- ②デマンド量の監視により電気使用状況を把握し抑制に努めるとともに、利用者に節電を呼び掛け、電気料金の減少と、節水コマの設置することにより上下水道料金の減少を見ました。
- ③利用者のデイサービス利用時や、外出時の食事が不要な場合に欠食届出を行うよう徹底し無駄の排除に努めました。

3. 研 修

(1) 施設内研修

- ①職員全体会での研修
介護技術の向上、個人情報の保護、感染症事故防止対策、各種研修報告会等

(2) 施設外研修

- ①他施設での介護技術等の実地研修
- ②老人福祉施設協議会（愛媛県・東予地区）の研修会
- ③愛媛県社会福祉協議会、新居浜市社会福祉協議会主催の研修会
- ④西条保健所主催の研修会

4. 行事報告

- 4月 草引き・お花見歩行会
- 5月 芍薬見学・草引き・庭木手入れ
- 6月 菖蒲見学・ふれあい喫茶
- 7月 夏祭り
- 8月 校区盆踊り大会参加
- 9月 敬老会

- 10月 ふれあい大運動会・生き生きフェスティバル
- 11月 校区文化祭参加
- 12月 クリスマスコンサート
- 1月 新年福笑い大会・冬の七夕参加
- 2月 節分
- 3月 お楽しみ会

5. 地域交流、ボランティア

(1) 地域交流

- ・慈光園夏祭り
- ・金栄校区盆踊り
- ・金栄小学校ツリー一点灯式
- ・地域清掃・金栄見守り隊への参加
- ・いきいき幸せフェスティバル
- ・金栄校区文化祭
- ・春秋の太鼓台訪問

(2) ボランティア受入

- | | | |
|---------|-----------|-----------|
| ・絵手紙クラブ | ・お話会クラブ | ・唄クラブ |
| ・さくら乳児園 | ・十全保育園 | ・子供太鼓台 |
| ・西中学校 | ・一宮グループ | ・若く明るく歌う会 |
| ・松尾貴臣 | ・デコ・ポココンビ | |